

3.

《**被爆樹木**》

Hibakujumoku

今から80年前の夏、広島と長崎に原子爆弾が投下された。爆心地周辺の樹木は太陽のおよそ40倍といわれる熱線を受け、樹皮や枝葉を焼失。しかし地中の根は無傷のまま残り、一部の木々は生き残った。後年、被爆した樹木には青々と緑が茂り、レジリエンス、生存、再生の象徴となった。

顕微鏡で拡大して見る被爆樹木の樹皮はさながらヒトの肌のようなだが、熱線に晒され、傷を負いながらも生き続け、脆弱でありながら柔軟に耐え忍ぶそのありようは、地球そのものの身体を想起させる。そこにあるのは生物に刻まれた歴史の痕跡であり、人類と自然との紐帯である。サウンドウォーク・コレクティヴのステファン・クラスニアンスキーはいう。「《被爆樹木》は樹木の生存についての瞑想であり、記憶や精神の生存、そして時間そのものの生存についての瞑想なのです」

4.

《**汚れた水**》

Tainted Water

東日本大震災にともない2011年に発生した福島第一原子力発電所の事故。原発の廃炉に向けた取り組みが進むなか、2023年8月から処理水の海洋放出が始まっている。専門家によって安全性は確認されているものの、今後数十年にわたって続くこの海洋放出は世界的な不安を引き起こし、放射能が海洋生物や地球の生態系に与える長期的な影響における不確実性を露呈させた。《汚れた水》は海中の風景や海洋生物が刷られた18世紀の浮世絵などのファウンドイメージを、デコラージュ技法を用いて抽象的な線に変換している。その線はまるで壊れたカセットテープのようだ。断片化され再構成された海の視覚言語は、記憶し、責任をもち、畏敬の念を抱くことへの呼びかけでもある。本作において、海はモチーフであるだけでなく語り手でもあるのだ。

5.

《**仏陀の背**》シリーズ

Buddhas Back series

ガラスに転写された4体の仏陀。しかし鑑賞者が対峙するのは、その背中である。仏教の教えによれば、仏陀は決して衆生から背を向けないという。だとすれば、背を向けた仏陀のイメージはある種の挑発なのだろう。環境が不安定になり、社会的・精神的な不安が蔓延する現代において、人類は果たして受け継いできた叡智を生かしているだろうか。目の前の現実から目を逸らしてはいないだろうか。本シリーズは観るものに、みずからの背反について省みる。仏陀の逸らされた視線はまた、招待状として解釈することもできる。絶望するのではなく、古くから伝わる叡智とふたたび関わり、人類が進む道を再考するための招待状として。

6.

《**無題**》

Untitled

仏教思想において、泥水のなかで咲く蓮の花は純粹さや悟り、逆境を乗り越える能力を表し、困難な人生の渦中における精神的な覚醒の象徴とされている。蓮の画はこの象徴性をさらに拡大し、自然の生成力や誕生・死・再生のサイクルを参照することで、生命と可能性の源としての胎(子宮)を考察する。同テーマの絵画として想起されるのがギュスターヴ・クールベによる《世界の起源》だ。しかし、クールベの官能的リアリズムとは対照的に、本作における蓮はより象徴的、精神的に用いられている。泥で濁った水のなかから瑞々しい花を咲かせる蓮は、混迷の時代を生きる現代人の肖像だろうか。清らかさ、再生、そして精神的な変容の可能性はつねに開かれている。

7.

8.

9.

10.

11.

12.

13.

14.

15.

16.

17.

18.

19.

20.

21.

22.

23.

24.

25.

26.

27.

28.

29.

30.

31.

32.

33.

34.

35.

36.

37.

38.

39.

40.

41.

42.

43.

44.

45.

46.

47.

48.

49.

50.

51.

52.

53.

54.

55.

56.

57.

58.

59.

60.

61.

62.

63.

64.

65.

66.

67.

68.

69.

70.

71.

72.

73.

74.

75.

76.

77.

78.

79.

80.

81.

82.

83.

84.

85.

86.

87.

88.

89.

90.

91.

92.

93.

94.

95.

96.

97.

98.

99.

100.

101.

102.

103.

104.

105.

106.

107.

108.

109.

110.

111.

112.

113.

114.

115.

116.

117.

118.

119.

120.

121.

122.

123.

124.

125.

126.

127.

128.

129.

130.

131.

132.

133.

134.

135.

136.

137.

138.

139.

140.

141.

142.

143.

144.

145.

146.

147.

148.

149.

150.

151.

152.

153.

154.

155.

156.

157.

158.

159.

160.

161.

162.

163.

164.

165.

166.

167.

168.

169.

170.

171.

172.

173.

174.

175.

176.

177.

178.

179.

180.

181.

182.

183.

184.

185.

186.

187.

188.

189.

190.

191.

192.

193.

194.

195.

196.

197.

198.

199.

200.

201.

202.

203.

204.

205.

206.

207.

208.

209.

210.

211.

212.

213.

214.

215.

216.

217.

218.

219.

220.

221.

222.

223.

224.

225.

226.

227.

228.

229.

230.

231.

232.

233.

234.

235.

236.

237.

238.

239.

240.

241.

242.

243.

244.

245.

246.

247.

248.

249.

250.

251.

252.

253.

254.

255.

256.

257.

258.

259.

260.

261.

262.

263.

264.

265.

266.

267.

268.

269.

270.

271.

272.

273.

274.

275.

276.

277.

278.

279.

280.

281.

282.

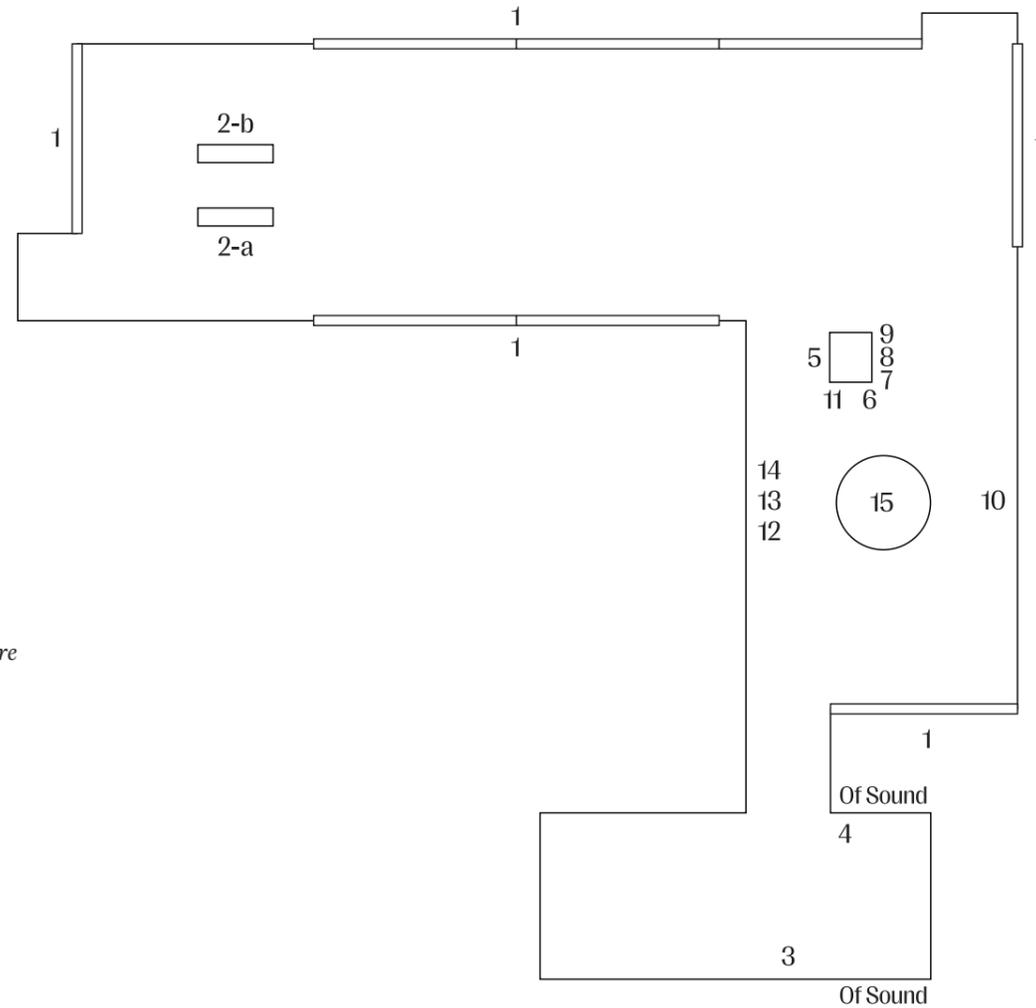
8チャンネル映像

8 Channel Films

全111分

サウンドウォーク・コレクティヴのステファン・クラスニアンスキーが世界のさまざまな土地を訪れフィールドレコーディングによって「音の記憶」を採集し、パティ・スミスがその録音との親密な対話を重ねて詩を書き下ろし、さらにそのサウンドトラックに合わせてサウンドウォーク・コレクティヴが映像を撮影・編集・引用する。こうした「往復書簡(=コレスポンド)」によって生まれたのが、展示空間全体を包み込む8チャンネルの映像インスタレーションである。サウンドウォーク・コレクティヴによる映像と音響、パティの詩の朗読によって構成される《チェルノブイリの子どもたち》《さまよえる者の叫び》《パゾリーニ》《燃えさかる 1946-2024》《侍者と芸術家と自然》《アナーキーの王子》《メディア》《大絶滅 1946-2024》は、8つのスクリーンで1作ごとに、関連するもう1本の映像とともに投影され、映像同士の対話や、展示内のほかの作品との呼応を生み出す。

| | |
|---|--|
| 1-a. | 1-e. |
| 《チェルノブイリの子どもたち》 <i>Children of Chernobyl</i> 2024 HD ビデオ 15分5秒 Video, HD, 15 min, 5 sec | 《侍者と芸術家と自然》 <i>The Acolyte, the Artist and Nature</i> 2024 HD ビデオ 13分13秒 Video, HD, 13 min, 13 sec |
| 1-b. | 1-f. |
| 《さまよえる者の叫び》 <i>Cry of the Lost</i> 2024 HD ビデオ 12分7秒 Video, HD, 12 min, 7 sec | 《アナーキーの王子》 <i>Prince of Anarchy</i> 2024 HD ビデオ 7分55秒 Video, HD, 7 min, 55 sec |
| 1-c. | 1-g. |
| 《パゾリーニ》 <i>Pasolini</i> 2024 HD ビデオ 13分 Video, HD, 13 min | 《メディア》 <i>Medea</i> 2024 HD ビデオ 14分8秒 Video, HD, 14 min, 8 sec |
| 1-d. | 1-h. |
| 《燃えさかる 1946-2024》 <i>Burning 1946-2024</i> 2024 HD ビデオ 17分28秒 Video, HD, 17 min, 28 sec | 《大絶滅 1946-2024》 <i>Mass Extinction 1946-2024</i> 2024 HD ビデオ 17分56秒 Video, HD, 17 min, 56 sec |



ライトテーブル

Light Tables

| | |
|---|---|
| 2-a. | 3. |
| 《パゾリーニ / メディア》 <i>Pasolini / Medea</i> 2024 ミクストメディア Mixed media 70 × 275 × 94 cm | 《被爆樹木》 <i>Hibakujumoku</i> 2025 ガラスに写真転写、金箔にインク Photo transfers on glass, ink on gold 51.5 × 42.4 × 30 cm (framed) |
| 2-b. | |
| 《アナーキーの王子 / さまよえる者の叫び》 <i>Prince of Anarchy / Cry of the Lost</i> 2024 ミクストメディア Mixed media 70 × 275 × 94 cm | |

| | |
|---|---|
| 4. | 10. |
| 《汚れた水》 <i>Tainted Water</i> 2025 ガラスに写真転写、金箔にインク Photo transfers on glass, ink on gold foil 51.5 × 42.4 × 30 cm (framed) | 《無題》 <i>Untitled</i> 2025 和紙にインクジェット印刷、鉛筆、クレヨン Pencil, crayon, and inkjet print on washi paper 159.5 × 92.2 × 18 cm (each panel); 3 panels |
| 5. | 11. |
| 《仏陀の背 #1-4》 <i>Buddhas Back #1-4</i> 2024 ガラスに写真転写 Photo transfers on glass 24.9 × 19.2 × 3 cm (each, framed); set of four | 《無題》 <i>Untitled</i> 2025 和紙にインクジェット印刷、鉛筆 Pencil on inkjet print on washi paper 73 × 47.6 × 1.5 cm |
| 6. | 12. |
| 《無題》 <i>Untitled</i> 2024 ガラスに写真転写、額にクレヨン Photo transfers on glass, crayon on wood 22.2 × 19.2 × 3 cm (framed) | 《無題》 <i>Untitled</i> 2025 和紙にインクジェット印刷、鉛筆、クレヨン Pencil, crayon, and inkjet print on washi paper 72.7 × 99.1 × 1.5 cm |
| 7. | 13. |
| 《無題》 <i>Untitled</i> 2025 和紙にインクジェット印刷、鉛筆、クレヨン Pencil, crayon, and inkjet print on washi paper 39 × 32.5 × 3 cm (framed) | 《無題》 <i>Untitled</i> 2025 和紙にインクジェット印刷、鉛筆、クレヨン Pencil, crayon, and inkjet print on washi paper 73 × 49.1 × 1.5 cm |
| 8. | 14. |
| 《無題》 <i>Untitled</i> 2025 和紙にインクジェット印刷、鉛筆、クレヨン Pencil, crayon, and inkjet print on washi paper 39 × 32.5 × 3 cm (framed) | 《無題》 <i>Untitled</i> 2025 和紙にインクジェット印刷、鉛筆、クレヨン Pencil, crayon, and inkjet print on washi paper 73 × 42.8 × 1.5 cm |
| 9. | 15. |
| 《無題》 <i>Untitled</i> 2025 和紙にインクジェット印刷、鉛筆、クレヨン Pencil, crayon, and inkjet print on washi paper 39 × 32.5 × 3 cm (framed) | 《沈黙》 <i>Mute</i> 2025 サヌカイト、アクリル Sanukite stone, white ink dimensions variable; pedestal: 360 cmø |